

いじめとボクシング

——内藤大助にとって「強さ」とは何か

要旨本文（文字数は自由）

本稿の問いは、テーマに記してある通り、内藤大助にとっての「強さ」とは何かと定めてある。具体的には、「元プロボクシング世界王者の内藤大助が、過去の悲惨ないじめ経験から、挫折や葛藤のような様々な経験をしてきた長いボクシングキャリアを通して得ることが出来た「ハートの強さ」とはどんなものか」ということである。

内藤大助が長いボクシング人生を歩まれてきて手に入れることが出来た強さとは、内藤大助本人が執筆した『いじめられっ子のチャンピオンベルト』の最後の章の、「強さって、なんだ？」に、「ハートの強さ」だと書き記されている。

本研究では、内藤大助の著書の分析のみならず、いじめられっ子から世界王者になった内藤大助に憧れている、現役プロボクサーの内田勇氣にお話を伺うことが出来た。内田勇氣は内藤大助と同様、過去に悲惨ないじめを受けていた。そのいじめがきっかけで、今の自分を変えたいという想いがあり、中学3年生時にボクシングの門を叩いた。既に10年以上のボクシングキャリアを歩まれているが、ボクシングによって手に入れたものは強さについてだけでなく、全く想像もしていなかった内容を多く教えてもらった。本稿では、内田勇氣にとっての強さと比較して、内藤大助にとっての強さがどんなものなのか。そして、内藤大助にとっての強さが、著書の中のどんなところで表現されているのかを考察してある。また、第1章の3項では、いじめの凶悪さと対処法についても考察した。